



▲あいさつ運動のようす(令和4年5月)

信頼関係を築き協力し合える体制を

先日、県の協議会から「新任研修で今までの経験をお話ししてください」と依頼を受けました。過去を振り返るにあたり、22年の間には本当に色々なことがあったとしみじみ感じています。私たちは、活動を行う上で気をつけなければいけないことが多々あり、見守りや相談支援の際にも、個人の生活に立ち入りすぎることがないように活動するのもその一つです。例えば、ある日、地域の高齢者のようすが普段と違ったようで、近隣住民から「見に行つてほしい」と連絡をいただきました。急いで関係者の人たちと一緒に向かったところ、室内で倒れておられたので、医療機関や身内の方に連絡を取って対応しました。このような時に、病院に付き添ったりしたこともあります。委員はあくまでボランティアです。夜中まで対応し、自宅に戻る交通手段がなくなったり、何かしらのトラブルに巻き込まれてしまうようなことがあってはなりません。委員は自分自身が元気で落ち着いているからこそ、地域の人たちに寄り添うことができるのです。一人では対応が難しいことも、色々な人と信頼関係を築くことで、しっかりとした協力体制のもと対応ができるようになるのです。

子どもたちの健やかな成長を願って

児童委員としては、普段は登下校の見守りを主に行っています。毎日顔を合わせるので次第に覚えてもらえるようになり、色々とお話してくれるお子さんも増えてまし

た。登校時は学校に向かう途中のためあいさつを交わす程度ですが、下校時は、その日にあったことなどを話してくれたりもします。ある時、小学生が踏切の遮断機に傘をひっかけてしまい、それが取れなくなるという事態が発生しました。「おばちゃん、大変大変」と私のところに知らせに来てくれ、一緒に傘をはずして何とか事なきを得ました。「踏切の近くは事故が起きやすい危険な場所だからね」と、その時はしっかり話して聞かせ、そのまま帰宅を見守りました。後日、学校の先生から丁寧な連絡をいただき、学校側でも再度入念な指導を行ったことと、感謝の言葉をいただきました。イタズラ心でやってしまったことかもしれませんが、大事なのは、そこで「これは危険」とか「してはいけないこと」だと子どもたちが気づき、次に生かすことです。子どもたちが健やかに成長していけるよう、見守る大人の目がより多くあることは大事だと思います。近年では新しいマンションも増え、実態が把握しづらいエリアもありますが、やはりある程度の地域や人のつながりは大切なのではないのでしょうか。



▲海田町かいた七タさんのようす(令和4年7月)



皆で連携して課題を解決 地域共生社会を実現したい

現 在進めているのは、地域と地域の連携。熊野町、坂町の協議会とは横のつながりを展開し、三町合同での研究会を開いています。今年は海田町での開催ということで、2月には防災についての研修会を開き、約110人の参加がありました。参加した委員から「とても勉強になる会だった」「また開いてほしい」といった声もあり、ほっとしたのと同時に、非常にうれしく思いました。今後も、要支援者の避難行動など、災害時の個別計画を推し進めていきたいと考えています。また、コロナ禍でストップしていたブックスタートパックの訪問配布を再開します。これは生後5カ月ごろの赤ちゃんがいるお宅に、絵本のプレゼントを持って訪問するというかいた版ネウボラの取り組みの一環です。何か困りごとがないかななどを聞き、母子サポートを行っています。私たちは普段、担当エリアの家庭を訪れ、緊急連絡カードの記入をお願いしたり、相談事に乗るといった活動をしています。ぜひ活動にご協力いただき、皆で見守り合える地域づくりをしていければと思います。そして、人と人が助け合い、誰もが暮らしやすく生きやすい地域共生社会を実現したいと思っています。

My Favorite 海田のお気に入り

心温まる手作り弁当交流会

民生委員児童委員協議会と社会福祉協議会は車の両輪となって多様な活動を行っています。社協の活動で感銘を受けたのが、海田高校家政科の生徒さんが地域の高齢者に手作り弁当を振る舞ってくれる「手作り弁当交流会」。若い人たちと高齢者の温かな交流の場にとっても感動しました。



今をときめく まちのあの人に 会いに行く

企画課(役場3階)

TEL 823-9212

Mail kikaku@town.kaita.lg.jp